

全史協四国通信

令和5年度



等妙寺旧境内（展望場上空より）

国史跡 等妙寺旧境内 - 愛媛県鬼北町 -

等妙寺旧境内は今からおよそ700年前の鎌倉時代末、日本天台宗を開いた最澄の教えを広め、乱れた世を仏の道で導くため創建された山寺跡です。学問を修め、厳しい修行を積んだ僧に戒師（師範）の資格を与えることができる南国唯一の寺でした。

現地は発掘調査を経て史跡公園整備が進捗中で、令和6年度には歴史探訪や森林浴、ウォーキングなど気軽に立ち寄ることのできる憩いの場としてオープン予定です。

1. 令和5年度事業報告

① 総会

- 日 時 令和5年8月22日（火）13:40～14:30
- 会 場 高知市立自由民権記念館 民権ホール
- 来 賓 文化庁文化資源活用課 中井 将胤 文化財調査官
高知県文化スポーツ部歴史文化財課 中内 勝 課長
今田 充 課長補佐

○議 題

- 議案第1号 令和4年度事業報告、決算報告及び決算監査報告
- 議案第2号 令和5年度事業計画案及び予算案
- 議案第3号 役員を選任について
- 議案第4号 研修派遣補助金交付要綱の改定について
- 議案第5号 有識者招へい旅費補助金交付要綱の改定について
- 議案第6号 四国地区協議会設立30周年記念事業について
- 議案第7号 令和6年度（第29回）総会の開催地について

② 記念講演会及び視察研修

- 日 時 令和5年8月22日（火）14:40～16:50
- 会 場 高知市立自由民権記念館 民権ホール
- 内 容
記念講演「道と整備」
文化庁文化資源活用課 中井 将胤 文化財調査官
事例報告「高知県の史跡整備の現状」
高知県文化生活スポーツ部歴史文化財課 今田 充 課長補佐

③ 視察研修

- 日 時 令和5年8月23日（水）8:00～12:00
- 場 所 五台山竹林寺



写真1 記念講演会



写真2 視察研修

④ 全史協臨時大会出席及び文化財関係予算確保のための陳情行動

○日 時 令和5年11月17日(金) 8:30～

○場 所 ホテルニューオータニ ザ・メイン「芙蓉」 他

○陳情先 四国四県の関係国会議員 26名

○参加者 15名(徳島県4名、香川県3名、愛媛県6名、高知県2名)

⑤ 各種補助金

○研修派遣補助金

文化財行政担当職員の資質向上を目的に、各種研修参加に係る旅費等に補助金を交付する事業。

- ・令和5年度伝統的建造物群保護行政研修会…宇和島市
- ・令和5年度埋蔵文化財担当者等講習会…西条市、徳島市、南国市
- ・令和5年度文化財担当者専門研修…高松市

○有識者招へい旅費補助金

発掘調査、出土物整理及び史跡の保存整備活用に係る現地指導に有識者を招へいするための旅費等に補助金を交付する事業。

- ・相作馬塚古墳出土遺物整理作業の現地指導…高松市

⑥ 会誌の発行

『全史協四国通信 令和5年度(第13号)』

2. 補助事業 実施報告

① 有識者招へい旅費補助金(高松市)

対象者：奈良大学文学部 豊島 直博 教授

実施日：令和5年7月19日～7月20日

目的：相作馬塚古墳(あいさこうまづかこふん、古墳時代中期)の発掘調査報告書を本年度刊行するにあたり、出土遺物を評価してもらうため。

内容：対象は大刀1振、ヤリ2本。特に装具に関する指導を受けた。

[担当者の所感]

今回対象とした資料のうち、特にヤリについては、その有機質装具が特異で、分類名称が付与されていないものであることが判明した。

研究史の文献と実物を見比べるだけでは判明しえない事実であり、本補助事業の恩恵を最大限に得られた。



② 令和5年度伝統的建造物群保護行政研修会(開催地：福井県小浜市)研修報告

宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課 学芸員 安藤 裕之

開催日：令和5年7月5日～7月7日

初日は、保存活用計画に関する講義を受けグループワークを行った。グループワークは、福島県喜多方市、京都府京都市、兵庫県たつの市、高知県安芸市の担当者と同じ班になり、まずは各市における保存活用計画の課題と特色について意見を交わした。本市は、令和5年度中に重要伝統的建造物群保存地区(以下「伝建地区」という。)選定に向けて上申を行う予定である一方、京都市は昭和51年に選定された祇園新橋が未だ保存計画のみで保存活用計画への更新を要するなど、新旧入り交じった班であった。



次に、小浜市小浜西組地区の取り組みの説明と、福井県若狭町熊川宿の事業者である時岡壮太氏による講義を受けた。講義後のグループワークでは、各地における連携体制の在り方について意見を交わした。喜多方市では、次年度の国庫補助対象事業について選定過程を確認・把握してもらうため、審議会のオブザーバーとして県の担当課を招聘している。さらに、大学等と連携して防災計画の策定を進めている。京都市の祇園新橋では審議会は無く、修景等の方針を祇園新橋景観づくり協議会と連携して決定しており、景観に対する意識の高さが感じられた。

2日目は建造物の修理に関する講義後、小浜西組地区での実地研修があった。実地研修では、蓬嶋楼、大師湯、小浜町家ステイ等を見学した。小浜町家ステイは、内子晴れ（愛媛県内子町）とは異なる一棟貸しの宿泊施設で、熊川宿の古民家を活用した宿泊施設と類似する。非日常を提供する施設としてこの地区を訪問する目的になり得る場所だと感じた。研修後のグループワークでは、物件台帳の重要性、町並みや古建築を守る連携体制の必要性を再確認できた。

3日目は、前日のグループワークで話し合った内容を発表した。発表のなかで、用途変更による未活用建物の活用について提案があり関心をもった。用途変更により、古建築が蔵のような付属建物から人に利用される建物に変わり、修理の優先度が低い現状を解消できるのではないかとという内容であった。本市岩松地区も修理に関しては同様であることから、この提案のように行政が活用の方策を示すことは本市でも有効ではないかと感じた。また、小浜西組地区は商家町と茶屋町に分かれることから、それぞれで整備方針を示してはどうかとの提案があった。岩松地区でも建築様式が混在し、周辺に合わせた修理・修景を個別に検討する必要性を感じていたため、この提案に共感した。

本研修をとおして、小浜西組地区での古建築の修理や活用の動向を体感できた。また、本市は、他市に比べて、地区や現状に即した独自の補助制度等が多く、これらが今後本市の特色になるのではないかと感じた。研修の目的の一つに、保存計画・保存活用計画の再確認・再検討がある。本市も定期的に振り返りを行い、状況に即した計画へ修正していきたい。

③ 奈良文化財研究所 令和5年度文化財担当者専門研修「地震災害痕跡調査過程」研修報告

高松市創造都市推進局 文化財課 品川 愛

開催日：令和6年2月19～2月22日

1. 「第四紀と考古学①・②」 講師：村田 泰輔

地層観察の基礎に関する講義。地層で観察される砂粒の粒度は通常礫～シルトまでで、また水流があったときにどの砂粒から動くか明らかにされており、砂粒の移動パターンと異なる動きがあれば、付近で人間が活動していた可能性があるとのこと。



2. 「古地震調査法① 災害伝承碑を用いた調査法」 講師：上梶 英之

災害伝承碑から読み取れる内容と碑文の記録法に関する講義。近年では「ひかり拓本」というアプリがあり（800円でダウンロード可）、簡単に碑文の拓本を取ることができる。また、アプリを利用して、学校での地域防災教育にも役立てられる。

3. 「古地震調査法②（実習）」 講師：村田 泰輔

土層の剥ぎ取りを観察し、地震痕跡がどのようなものか説明を受けた。視覚的にわかりやすい噴砂や墳礫、地滑り痕跡のほか、層中のラミナの方向に直行するような砂の流れが認められれば、液状化痕跡の可能性があるとのこと。

4. 「古地震調査法③ 歴史資料を用いた調査法」 講師：西山 昭仁

歴史資料にみられる地震の記録に関する講義。発掘調査で見つかった地震痕跡と歴史資料の調査成果を突き合わせることで、地震の規模や被害といった内容に迫ることができる。

5. 「地震痕跡調査法③ データベース」 講師：村田 泰輔

発掘調査報告書等に記された地震痕跡をデータベース化し、過去の地震の発生パターンを把握しようという奈文研の試みに関して説明があった。

6. 「発掘調査で見つかる地震痕跡～低湿地遺跡を中心に～」 講師：村田 泰輔

土層剥ぎ取りの観察時間に変更。詳細は3のとおり。

7. 「発掘調査現場で見つかる地震痕跡～古墳調査を中心に～」 講師：西光 慎治

古墳でみられる地震痕跡に関する講義。古墳の整備を進める場合、地震は古墳が崩落する原因になりうるため、発掘調査で地震痕跡の有無を確認しておくことも必要である。

8. 「地震のメカニズムと地盤災害痕跡」 講師：三村 衛

地震が起きる原理や液状化痕跡の見極め方等に関する講義。砂層を粘土層がパックしている状況で液状化痕跡が見つかりやすいとのこと。発掘調査で液状化痕跡が見つかった場合、今後も同様に液状化する可能性があるため、開発業者にその旨を伝え、基礎等の設計を見直してもらうといった対策も必要である。

9. 「地震考古学～南海トラフの地震と慶長伏見地震の地震痕跡～」 講師：寒川 旭

発掘調査でみつかった地震痕跡のデータを蓄積していくことで、地震の周期をある程度絞り込むことが可能。また、各地の地震痕跡について説明があった。

「全国史跡整備市町村協議会 四国地区協議会」とは？

全国史跡整備市町村協議会及び四国地区協議会の目的に賛同し、文化財が所在する四国の市町村をもって、平成8（1996）年に結成された団体です。加盟市町村が協調し、文化財の保護に関する調査研究やその具体的方策の推進を図りながら文化財の保存活用に資することを目的とし、文化財の保存整備と公開活用が円滑に、また適切に行われるよう、文化財に関する情報交換、補助事業、国への予算要望の取りまとめや陳情等の活動を実施しています。

【役員】

会長	松山市長	野志 克仁
副会長	徳島市長	内藤 佐和子
副会長	高松市長	大西 秀人
副会長	高知市長	桑名 龍吾
理事	美馬市長	加美 一成
理事	藍住町長	高橋 英夫
理事	丸亀市長	松永 恭二
理事	今治市長	徳永 繁樹
理事	宇和島市長	岡原 文彰
理事	南国市長	平山 耕三
監事	石井町長	小林 智仁
監事	松野町長	坂本 浩

【加盟市町】

(香川県)	高松市	丸亀市
(徳島県)	徳島市	阿波市 美馬市 石井町 藍住町
(愛媛県)	松山市	今治市 宇和島市 西条市
	大洲市	西予市 松前町 松野町 鬼北町
	愛南町	
(高知県)	高知市	南国市

○編集後記○

全史協四国地区協議会の会誌（令和5年度版）をお届けします。御寄稿いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。令和5年度は、コロナ禍がおさまり、予定の事業をすべて実施することができました。加盟市町の皆様には多大なる御協力をいただき、ありがとうございました。令和6年度は、愛媛県鬼北町で総会等が開催されます。旧等妙寺境内の壮観な眺めを現地に立って体験しましょう。加盟市町の皆様には、ぜひ御出席いただきますようお願いいたします。

全史協四国通信 令和5年度 -全国史跡整備市町村協議会四国地区協議会 会誌-

発行年月日 2024（令和6）年3月19日

編集・発行 全史協四国地区協議会事務局 〒790-0003 愛媛県松山市三番町六丁目6番地1

TEL：(089) 948-6605 Email：kybunka@city.matsuyama.ehime.jp



奈良山等妙寺歴史交流館